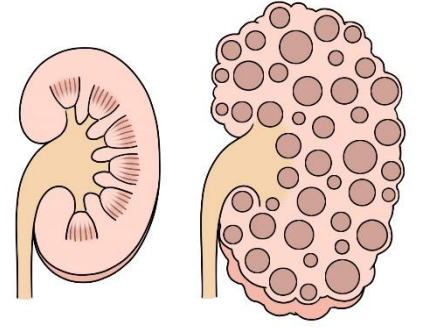


「のう胞腎外来」のお知らせ

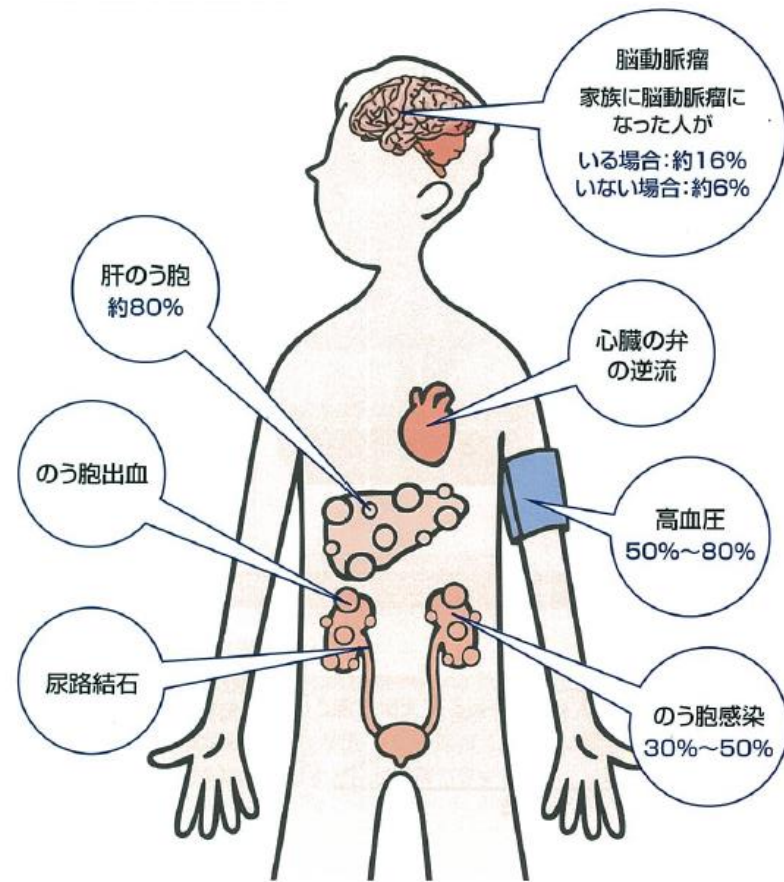
■ 常染色体優性多発性のう胞腎(ADPKD)

両側の腎臓に多数ののう胞（水分のたまった袋）ができ、年齢と共に腎臓が大きくなり、腎機能が徐々に低下する疾患です。多くは遺伝でおこり、遺伝性疾患の中では頻度が高く、透析導入となる事も多い疾患です。



正常な腎臓（左）→大きくなった腎臓（右）

患者さんによって症状は異なりますが、主な合併症は高血圧や脳動脈瘤などがあり、肝臓に嚢胞ができることもあります。



■ 毎週火曜日、「のう胞腎外来」として専門診療を行っています。

ADPKDに関する最新の知見を踏まえ、スタッフ一同で診療を行っています。

これまでADPKDの治療薬はありませんでしたが、初の治療薬トルバプタン

（サムスカ）が世界に先駆けて使用可能になりました。また、2015年1月より難病医療費助成制度の対象疾患となり、医療費の助成を受けられるようになっています。

病気の事を理解して、どのような症状があるのか、その症状や腎機能が悪くならないように、食事や日常生活のことなど、お気軽に担当医師にご相談ください。

